

III 一～五類 全数把握感染症

1. 一類感染症

全国、大阪府とも発生はなかった。

2. 二類感染症

結核以外の二類感染症は、全国、大阪府とも発生はなかった。

結核については、下記ホームページを参照されたい。

(財)結核予防会結核研究所 疫学情報センター

<http://jata-ekigaku.jp>

(文責：皐月)

3. 三類感染症

●コレラ

大阪府内では、コレラの発生はなかった。

●細菌性赤痢

1例の届出があり、推定感染地域はネパールで、患者は、無症状（無症状病原体保有者）であった。

●腸チフス

1例の届出があり、推定感染地域はインドで、患者は、高熱及び下痢を呈し、脾腫及びバラ疹も見られた。

●パラチフス

大阪府内では、パラチフスの発生はなかった。

(文責：川津)

2020年 三類感染症週別発生状況

コレラ

府・市	1月					2月				3月					4月				5月				6月				
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週
大阪府																											
大阪市																											
堺市																											
高槻市																											
東大阪市																											
豊中市																											
枚方市																											
八尾市																											
寝屋川市																											
吹田市																											
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

細菌性赤痢

府・市	1月					2月				3月					4月				5月				6月				
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週
大阪府																											
大阪市					1																						
堺市																											
高槻市																											
東大阪市																											
豊中市																											
枚方市																											
八尾市																											
寝屋川市																											
吹田市																											
合計	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

腸管出血性大腸菌感染症

府・市	1月					2月				3月					4月				5月				6月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
大阪府					1			1							1						2	1		3	2	1
大阪市			1	1	2							1											3	1	2	2
堺市				2																			1	1	1	
高槻市																								2	1	2
東大阪市																				1			1	1	1	
豊中市																									1	
枚方市																									1	
八尾市	1											1														
寝屋川市																										1
吹田市														1	1											1
合計	1	0	1	3	3	0	0	1	0	0	0	0	2	1	1	1	0	0	0	0	2	2	6	9	8	7

腸チフス

府・市	1月					2月				3月					4月				5月				6月				
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週
大阪府																											
大阪市																											
堺市		1																									
高槻市																											
東大阪市																											
豊中市																											
枚方市																											
八尾市																											
寝屋川市																											
吹田市																											
合計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

パラチフス

府・市	1月					2月				3月					4月				5月				6月				
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週
大阪府																											
大阪市																											
堺市																											
高槻市																											
東大阪市																											
豊中市																											
枚方市																											
八尾市																											
寝屋川市																											
吹田市																											
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●腸管出血性大腸菌感染症

患者 107 例、無症状保菌者 40 例の計 147 例の届出があった。年間を通しての発生状況については、例年同様に 6 月から 9 月にかけて多く発生したが、昨年と違って 10 月に入っても多くの発生があった（図 1）。また、報告のあった事例については、その全てが散発及び家族内発生事例で、食中毒事例や集団感染事例の報告はなかった。感染者の年齢は 20 歳代が最も多く、次いで、10 歳代、30 歳代、40 歳代の順で多く、男女間での比較では、女性の方が、有症率が高かった（図 2）。なお、HUS 患者の報告は 2 例（有症者の 1.9 %）あり、昨年（有症者の 5.3%）より発生率が低かった。

（文責：川津）

図 1 腸管出血性大腸菌感染症 週別発生状況 2020 年 1～53 週

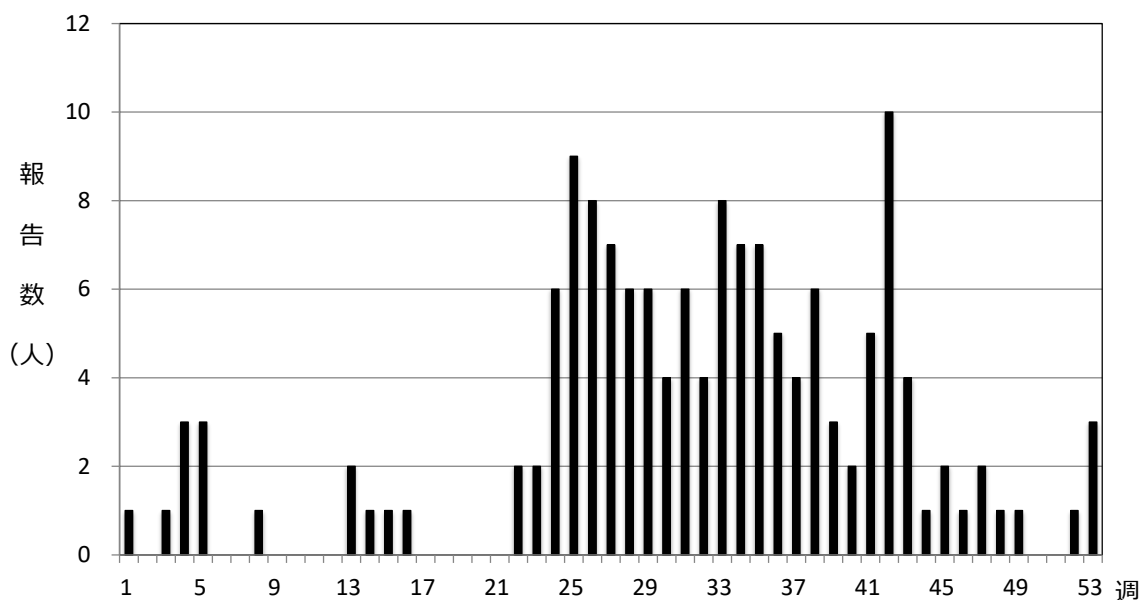
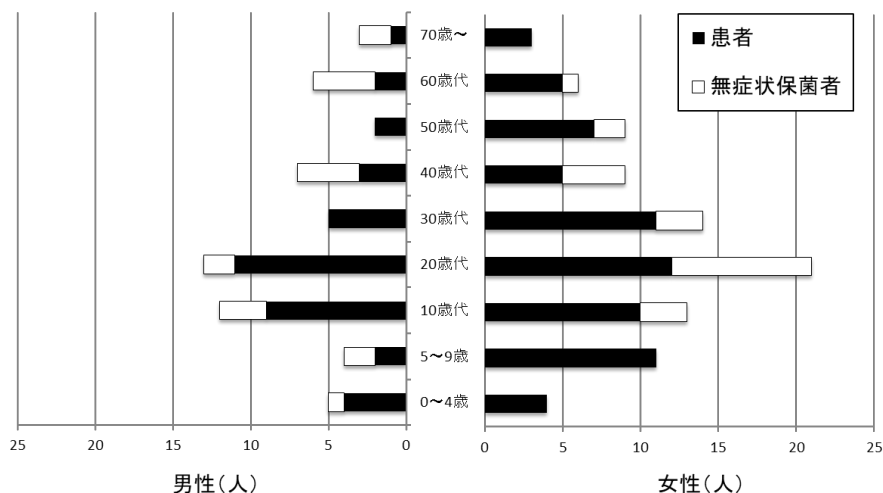


図 2 腸管出血性大腸菌感染症 年齢別発生状況 2020 年 1～53 週



4. 四類・五類感染症（全数把握分）

2020年、大阪府における四類・五類感染症の届出数は、30疾患1,765例であった。2019年の33疾患3,399例に比べて3疾患減少し、届出数は1,634例の減少であった（表1）。

表1 四類・五類全数把握感染症届出数

種別	疾患名	届出数	大阪府内計	全国計
四 類	E型肝炎	4	(5)	454 (493)
	A型肝炎	7	(23)	120 (425)
	エキノコックス症	0	(0)	22 (24)
	オウム病	0	(2)	7 (13)
	回帰熱	0	(0)	15 (7)
	Q熱	0	(0)	0 (2)
	狂犬病	0	(0)	1 (0)
	コクシジオイデス症	0	(0)	6 (2)
	ジカウイルス感染症	0	(0)	1 (3)
	重症熱性血小板減少症候群	0	(0)	78 (101)
	チクングニア熱	0	(4)	3 (49)
	つつが虫病	0	(1)	536 (404)
	デング熱	5	(53)	45 (461)
	日本紅斑熱	11	(8)	421 (318)
	日本脳炎	0	(0)	5 (9)
	ブルセラ症	1	(0)	2 (2)
	ポツリヌス症	2	(0)	4 (3)
	マラリア	3	(4)	21 (57)
	ライム病	0	(0)	27 (17)
	類鼻疽	0	(0)	1 (2)
レジオネラ症	99	(133)	2,058 (2,314)	
レプトスピラ症	0	(0)	16 (32)	
	四類合計	132	(233)	3,843 (4,738)
五 類	アメーバ赤痢	49	(75)	613 (851)
	ウイルス性肝炎	23	(19)	246 (330)
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	157	(200)	1,952 (2,333)
	急性弛緩性麻痺	2	(3)	34 (77)
	急性脳炎	18	(30)	490 (959)
	クリプトスポリジウム症	1	(2)	6 (19)
	クロイツフェルト・ヤコブ病	7	(8)	154 (193)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	49	(68)	764 (926)
	後天性免疫不全症候群	115	(139)	1,096 (1,233)
	ジアルジア症	6	(6)	28 (53)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	25	(44)	253 (543)
	侵襲性髄膜炎菌感染症	2	(7)	14 (48)
	侵襲性肺炎球菌感染症	116	(279)	1,655 (3,342)
	水痘（入院例）	11	(20)	362 (492)
	先天性風しん症候群	0	(1)	1 (4)
	梅毒	902	(1,101)	5,871 (6,639)
	播種性クリプトコックス症	6	(9)	152 (156)
	破傷風	1	(3)	105 (126)
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	22	(32)	136 (80)
	百日咳	111	(836)	2,947 (16,846)
風しん	7	(132)	102 (2,306)	
麻しん	1	(149)	12 (746)	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	2	(3)	10 (24)	
	五類合計	1,633	(3,166)	17,003 (38,326)
	合計	1,765	(3,399)	20,846 (43,064)

()内は2019年のデータ

四類感染症の届出数は 8 疾患 132 例であった。前年と比べ 1 疾患減し、前年届出がなかったブルセラ症、ポツリヌス症について報告があり、前年届出があったオウム病、チクングニア熱、つつが虫病について報告がなかった（表 1）。

四類感染症の届出数は 101 例減少した。増加した疾患は、日本紅斑熱で 11 例の届け出があり、前年に比べて、3 例の増加であった。減少した疾患のうち、E 型肝炎は 4 例の届出があり、前年に比べ 1 例、A 型肝炎は 7 例の届け出があり、前年に比べ 16 例の減少であった。デング熱は、5 例の届け出があり、前年 53 例に比べて 90.6%の減少となった。新型コロナウイルス感染症の流行により渡航制限がなされ、海外旅行者による輸入感染事例が減少したことが原因だと考えられる。マラリアは 3 例の届け出があり、前年に比べて 1 例の減少である。レジオネラ症は 99 例の届出があり、前年に比べ 34 例の減少であった。

五類感染症の届出数は 22 疾患 1,633 例であった。前年に比べ 1,533 例の減少であった。増加した疾患は、ウイルス性肝炎のみで 23 例の届出があり、前年に比べて 4 例の増加となった。減少した疾患のうち、アメーバ赤痢は 49 例の届出があり、前年に比べ 26 例の減少であった。カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は 157 例の届出があり、前年に比べ 43 例の減少であった。急性弛緩性麻痺は、3 例の届出があり、前年より 1 例の減少である。急性脳炎は、18 例の届出があり、前年より 12 例の減少である。劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 49 例の届出があり、前年より 19 例の減少である。後天性免疫不全症候群は 115 例の届出があり、前年に比べて 24 例の減少となった。侵襲性インフルエンザ菌感染症は 25 例の報告があり、前年より 19 例の減少である。侵襲性髄膜炎菌感染症は、2 例の届出があり、前年に比べ 5 例減少した。水痘（入院）は 11 例の報告があり、前年より 9 例の減少である。梅毒は 902 例の報告があり、前年 1,101 例より、199 例の減少し、年以來 1000 例を下回った。播種性クリプトコッカス症は、6 例の届出があり、前年に比べ 3 例減少している。バンコマイシン耐性腸球菌感染症は、22 例の届出があり、前年に比べ 10 例減少していた。百日咳は、111 例であり、前年 836 例に比べ 86.7%の減少となった。風しんは、7 例の報告があり、前年 132 例に比べ 94.7%の減少となった。麻しんについても、大幅に減少しており、別項で後述する。薬剤耐性アシネトバクター感染症は、2 例の届出があり、前年に比べ 1 例減少している。

五類感染症で例年届出数の多い 5 疾患について、大阪府内を大阪府管内、大阪市、堺市、高槻市、東大阪市、豊中市、枚方市、八尾市、寝屋川市、吹田市に区分して再掲する（表 2）。カルバペネム耐性腸内細菌感染症は、寝屋川市のみ増加した。後天性免疫不全症候群は、大阪市が 107 例から 94 例に減少していた。また、侵襲性肺炎球菌感染症は、高槻市のみ増加している。梅毒は、高槻市で 6 例増加した。百日咳は、いずれにおいても著明に減少していた。

全国の 2020 年における四類・五類感染症の届出数を見ると、20,846 例で前年の 43,064

例と比べて 22,218 例減少しており前年の約半数となっている。主に、四類感染症で増加した疾患は、回歸熱が 7 例から 15 例に、つつが虫病が 404 例から 536 例に、日本紅斑熱が 318 例から 421 例に、ライム病が 17 例から 27 例に、それぞれ増加した。一方、大きく減少したのは、A 型肝炎（425 例から 120 例）、デング熱（461 例から 45 例）、マラリア（57 例から 21 例）であった。五類感染症では、バンコマイシン耐性腸球菌感染症が 80 例から 136 例に増加した。その他の感染症は、減少しており特に減少したのは、百日咳（16,846 例から 2,947 例）、風しん（2,306 例から 102 例）、麻しん（746 例から 12 例）であった。

（文責：皐月）

表 2 大阪府、政令中核市保健所別五類全数把握感染症届出数（再掲）

疾患名	届出数	大阪府内再掲								
		大阪府管内	大阪市	堺市	高槻市	東大阪市	豊中市	枚方市	八尾市	寝屋川市
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	27 (46)	58 (67)	31 (65)	11 (46)	3 (7)	3 (9)	3 (11)	8 (14)	3 (1)	10 (-)
後天性免疫不全症候群	8 (12)	94 (107)	5 (7)	2 (3)	2 (0)	1 (4)	2 (5)	0 (0)	1 (1)	0 (-)
侵襲性肺炎球菌感染症	29 (92)	38 (98)	18 (41)	14 (12)	5 (11)	0 (0)	3 (19)	5 (5)	1 (1)	3 (-)
梅毒	110 (179)	639 (773)	34 (43)	14 (8)	20 (32)	12 (14)	11 (22)	21 (25)	4 (5)	37 (-)
百日咳	35 (342)	54 (240)	7 (78)	2 (23)	2 (49)	2 (48)	2 (37)	3 (12)	1 (7)	3 (-)

（ ）内は2019年のデータ

●麻しん

2020 年、大阪府における届出数は、第 11 週の大阪市 1 例のみであり、99.3%の減少となった。新型コロナウイルス感染症の流行により、新しい生活様式の実践や渡航制限により、報告数が減少したと考えられる。

（文責：皐月）

